

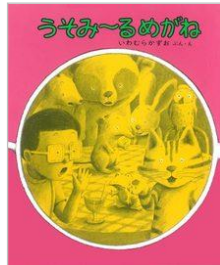


おはなしトレイン

なつのワクワク号

学年ごとに おすすめの本を 紹介します。小さなスイカのマーク  は読みやすいおはなし、大きなスイカのマーク  はすこし長めのおはなしです。夏休みにぜひチャレンジしてください。

1・2年生
イチオシ!



いわむらかずお/文・絵
復刊ドットコム



『うそみーるめがね』

ある日、さとちゃんは紙やはさみをつかって、みずいろのめがねをつくりました。これをかけるとまるで海の中にいるみたい！ さとちゃんはうれしくなって、みんなに見せようとあき地へ出かけますが、そこにいたのは1びきのねこでした。ねこの名前は「ごーぐる」。ごーぐるについてどかんの中へとびこむと、そこに広がっていたのはふしぎなしょうてんがいてした。

3・4年生
イチオシ!



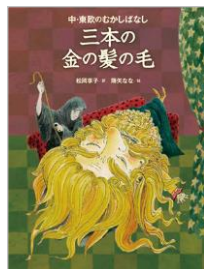
館野鴻/作・絵
借成社



『つちはんみょう』

主人公、ヒメツチハンミョウはとても地味で目立たない虫です。しかしこの地味な虫は、多くのなかまの死の上に立つ1匹なのです。4,000もの卵からかえった体長1mmに満たない幼虫たちは、わずか4日という短い寿命です。その中で、命を次へつなぐため、他の虫たちに取りつきながら寄生先となるヒメハナバチの巣をめざします。小さな幼虫の旅は、とてつもなく力強いものでした。

5・6年生
イチオシ!



松岡享子/訳
降矢なな/絵
のら書店



『三本の金の髪の毛』

炭焼き男の息子プラバチェクは、大きくなったら王の娘と結婚すると老婆に予言されました。それを聞いた王は、そうはさせまいと、あの手この手でプラバチェクの命をねらいますが、失敗してばかり。あげくの果てに「すべてを知る知恵の老人の、金の髪の毛を三本、もってこい」と命じ…。聞きなれた西洋の昔話とはまた異なる雰囲気をもつ、中・東欧の昔話を味わってみませんか？ 16話の短編集。



1・2年生



フィリス・クラシロフスキー/作
ピーター・スパイアー/絵
みなみもとちか/訳
ポプラ社



『うんがにおちたうし』

オランダで、畑^{はたけ}にかこまれてくらすうしのヘンドリカは、草^{くさ}をたべるだけのたいくつな毎日^{まいにち}をすごしていました。ある日^ひ、おいしい草^{くさ}をさがして歩^{ある}いていると、いつのまにかうんがにおちてしまいました。そして、ながれてきたはこにのっかります。ながされながらヘンドリカが目^めにしたものは、めずらしいものばかり。ヘンドリカはうれしくてたまらなくなってきました。



たかどのほうこ/さく・え
こぐま社



『ポンちゃんはお金もち』

はらっぱ公園^{こうえん}にやってくる「いどうゆうえんち」へ行^いくはずだったコートは、へやの中^{なか}でべんきょうをしています。コートのテストの点^{てん}がわるかったため、ぷんぷんしているお母^{かあ}さんにいつけられたのです。そこへにこにこしながら手まねきをするポンちゃん^{かあ}があらわれて、おこづかいをもっているから、こっそりぬけ出して、はらっぱ公園^{こうえん}に行^いこうというのです。



サマセット・モーム/文
武井武雄/え 光吉夏弥/やく
岩波書店



『九月姫とウグイス』

むかし、シャムの国^{くに}（今のタイ）に9人のお姫さま^{ひめ}がいました。一番上^{いちばんうえ}からいちがつにがつと名前^{なまえ}がつけられて、末^{すえ}のお姫さまは九月姫と名づけられました。おう王^{おう}さまは、むすめたちそれぞれに、金^{きん}いろのかごにはいったみどりいろのオウムをおくりました。ところがある日^ひ、九月姫のオウムがしんでしまったのです。かなしんでないお姫^{ひめ}のところへ1羽^わの小鳥^{こどり}がとびこんできます。



ミルドレッド・マイリック/ぶん
アーノルド・ローベル/え
小宮由/やく 大日本図書



『たんけんクラブ シークレット・スリー』

"あんごう^し、って知^しっていますか。それは、なかまだけがわかる、ひみつのしるしや言葉^{ことば}です。ピリーとマークはすなはまで、ビンの中^{なか}に入った、ふしぎな手紙^{てがみ}をみつけます。手紙^{てがみ}をかいたのは、むこうの島^{しま}にすんでいるトムでした。ふたりはあんごうをかんがえて、へんじをかきます。みなさんもトムといっしょに、あんごうをといてみてください。





リンジー・マティック/ぶん
ソフィー・ブラッコール/え
山口文生/やく 評論社



『プーさんとであった日』

クマのプー-sanを知っていますか？ では、プー-sanが実在するクマだった
ということは？ 今から100年以上前、カナダの軍隊の獣医師ハリーは、
1ぴきのコグマに出会い、ウィニーと名づけます。ウィニーはハリーたちと
いっしょに旅をし、やがてはロンドンの動物園にわたり…。巻末の写真も必
見です。岩波少年文庫の『クマのプー-san』も、あわせてどうぞ。



マリオン・アピントン/文
ルイス・スロポドキン/絵
清水真砂子/訳 瑞雲舎



『カルペパー一家のおはなし』

カルペパー一家は、デビーのお父さんが作った紙人形の家族です。一家にと
っては、子ども部屋の中だけでも、ハラハラドキドキのぼうけんがいっぱい。
そんなある日、むすめのアンジェリーナのすがたが見えなくなってしまいま
す。必死にさがし回ると、アンジェリーナはしおり代わりに本の間にはさま
れていました。さあいったいどうやって助けるのでしょうか？



ミラ・ローベ/作
塩谷太郎/訳
岩波書店



『リンゴの木の上的おばあさん』

おばあさんがいないアンディは、友だちの間でくやしい思いをしていま
した。ところが、かくれ場所にあるリンゴの木に登ったある日のこと、目の前
にとつぜんおばあさんがあらわれたのです。アンディは、おばあさんがあら
われるたびに、ゆうえん地へ行ったり馬にのったりと、思い切りやりたいこ
とをして楽しくすごしますが、おばあさんはいつも、いつの間にかいなくな
ってしまうのでした。



岡田淳/作
理論社



『こそあどの森の物語 水の森の秘密』

どこかにあるふしぎな森、こそあどの森。そこにすむ人たちは、少し前から、
森の様子が何だか変だと感じていました。この「なんだか変」は、今まで食
べられないと思っていたプニョプニョダケというキノコが、実はとてもおい
しいとみんなが知り、たくさんとってしまったことから始まっていたので
す。1994年から続くシリーズ12巻、ついに完結！ この巻だけ読んでも、
1巻から続けて読んでも、楽しめますよ。





富安陽子/作
YUJI/画
福音館書店



『菜の子ちゃんとカッパ石』

砂子多川の川べりにある「カッパ石」は、カッパたちが二度といたずらをしていないとちかった約束の石…のはずが、実は二セモノだった！もし、ただの石だとカッパたちにばれたら、町はカッパのいたずらで大変なことになってしまいます。ふしぎな転校生、菜の子ちゃんに本物の石探しをたのまれたトオルは、菜の子ちゃんと共にイノシシにまがり、山をかけるぼります。



高頭祥八/文・絵
福音館書店



『海はもうひとつの宇宙』

地球をつつむ海は、身近でありながら神秘的な未知の世界でもあります。遠い昔から、人びとは海の中のことを知るために試行錯誤を繰り返してきました。海中で息をするには…水圧につぶされないためには…。

さまざまな発明や技術の進歩が、絵や写真とともに解説されています。海中探検の歴史を中心とした、読みごたえのある海の科学絵本です。



アーサー・ランサム/作
神宮輝夫/訳
岩波書店



『ツバメ号とアマゾン号 (上)・(下)』

農場で夏休みを過ごすウォーカー一家の子どもたちに、うれしい知らせが届きました。ついにお父さんが、子どもたちだけで、湖の無人島でキャンプすることを許してくれたのです。子どもたちは自分たちの小さな帆船「ツバメ号」を操り、島の探検を始めます。そこで出会ったのは、小さな帆船を見事に操る「アマゾン海賊」の少女たちでした。夏の読書にぴったりの冒険物語です。



斉藤倫/著
junaida/画
福音館書店



『せなか町から、ずっと』

長い間、海の上をただよっている「わし」。このわしの背中^{せなか}は、いつしかせなか島となり、そこにできた町はせなか町となりました。せなか町にはこれまでに、色々な人たちが暮らしてきました。ひねくれ者のカーテンや、ねこに名前を取られた女の子、演奏方法を知られていない楽器「麦の光」。彼らに起こる宝石のようにキラキラした、風変りな出来事。ささやかだけれど、とびきり不思議な6つの連なる物語です。

